



# ふれいめん通信

2019年9月30日

## Vol. 136

### ●先生のおすすめ絵本

**まる まる まるのほん** 〈作〉エルヴェ・テュレ 〈訳〉たにかわ しゅんたろう 〈出版〉ポプラ社

今回 紹介する絵本は、それまでの私の絵本の概念を一新し、クラスの子どもたちにも「よんで よんで」とリクエストされた1冊です。作者のまえがきに、「びっくりさせるのがだいすき。だから、この絵本にも たくさんの『びっくり』をつめこんだよ。」とあるように、いろいろな色の絵の具でかかれた“まる”がストーリーにそって、増えたり動いたり、膨らんだり・読み手とのやりとりの中で、魔法のように変化していくんです。読者が絵本の世界を動かす新感覚絵本！ 続編の「いろいろのほん」とあわせて、ぜひ親子で手に取って楽しんでみて下さい！！



〈たんぼ組 Y 先生〉



**ともだちや** 〈作〉内田 麟太郎 〈絵〉降矢 なな 〈出版〉PHP研究所

森いちばんのさみしんぼうキツネは、「ともだちやさん」を始めることを思いつきました。時間100円で友だちになってあげるのです。そしてキツネはオオカミに呼ばれて一緒に遊びます。「お友だちはお金で買えないよ」「一緒に遊んだら友だちになれるんだよ」。それじゃあ、どうやって友だちになるのかな？と聞くと「近くに行って、入れてって言うの」「何してるの？って聞いている」「一緒に遊ぼって言う」。それぞれいろんな意見が出てきて、子ども達なりの友だちの作り方があるんだなあと感じました。いっぱい遊んで、大切な友だちにたくさん出会ってほしい、そんな思いでこの絵本を読みました。シリーズになっている、子ども達も担任もお気に入りの一冊です。

〈さくら組 I 先生〉



## 夏休みの読み聞かせカードより

**グリーンマントのピーマンマン** 〈作〉さくら ともこ 〈絵〉中村景児 〈出版社〉岩崎書店



息子のクラスで何回も読んでいただいている「グリーンマントのピーマンマン」。おうちでも読んでみようと思い購入してから、毎日何回も読んで！と言われるほどお気に入りの一冊です。この本に出会い、好き嫌いだらけの息子が少し野菜を食べるように！こどもの嫌いなおやさい上位のピーマン。本に出てくるこどももピーマンはくさくてがくてからいから大嫌いだ！というところからお話が始まります。他に登場するやさいたちも、嫌われ者のピーマンとは友だちになりたくないと言います。そんな時、のどいたばいきんとはらいいたばいきんが次々と現れ子どももやさいたちを襲います。そこで登場するのがピーマンたち。不思議なちからやかっこいいワザを出せばいきんをやっつけます。嫌われ者をヒーローに設定し、イメージを打破する、やさいに限らず実はかなり深いお話だなと感じ、今後も読んでいきたいと思った一冊でした。

〈こぼと組 Uさん〉

**いろいろおしたく** 〈作〉えがらし みちこ 〈出版社〉小学館

はなちゃんが朝おきて園にでかけるおしたくをします。娘は朝おきておはよう！って言ったら次は何をする？「トイレ！！」と問いかけをしながら読み進められるので親子ともども楽しめました。娘は自分と重ね合わせているのか興味津々で聞いていました。丁度、夏期保育が始まる前に読んだこともあって、朝のおしたくするときにはなちゃんは何してたっけ？と自らお着替えしたりカバンを用意したりとその変化にビックリしました。



〈あひる組 Yさん〉



**だいすき ぎゅっ ぎゅっ**

〈文〉フィリス・ゲイシャイトーミム・グリーン 〈絵〉デイヴィッド・ウォーカー 〈出版社〉岩崎書店

ウサギの親子の何気ない日常。朝起きるところから始まり、日常の中に合間で「だいすき ぎゅっぎゅっ」と可愛く子どもを抱きしめます。以前から大好きな本でしたが、出産も近くなり、知らず知らず息子の我慢も増えてしまい…寝る前にこの本を読み穏やかな気持ちで抱きしめてたり、あわただしい日常の中で合間に「だいすき ぎゅっぎゅっ」とすることでゆったりとした時間になったり、照れながらも嬉しそうな笑顔を見せてくれます。子どもから「だいすき ぎゅっぎゅっして」と言ってくることもあり、甘えたい時のすてきなきっかけ作りとなった一冊です。

〈ひよこ組 Oさん〉



## さよなら さんかく

〈作〉わかやま けん 〈出版社〉こぐま社

幼稚園で読み聞かせをしていただいている中で、やはり「こぐまちゃんシリーズ」がお気に入りのようだったのでこちらを選びました。私も今まで色々な本を読んできてあげましたが、リズムにのって久々子どもになったように楽しんで読める本でした。「しかくはなあに→しかくはとうふ→とうふはしろい→しろいはぼーる→ぼーるはまるい→まるいはとまと」などとずっと続くのですが、子供も一緒に頭の中で連想して思いあてるようで、自分の中で物を考えられるのがよかったようでワクワクした表情で聞き入っていました。きいろバスを見ると自分の幼稚園のバスと同じでしたので、指をさしてうれしそうに「これぼくのバス」と楽しそうでした。読んでいてもよくあきてしまうことが多かったのですが、この本はテンポもよく字も少なかったのきにいっただのかな～と思います。



〈つばめ組 Oさん〉

## へそのかくれが

〈文〉中西 翠 〈絵〉かべや ふよう 〈出版社〉アリス館



仲良しのゆいくんが何だか変！！いつもと反対のことばかりしています。そう、おへそにあまのじゃくが入ってしまったのです。さあ幼稚園の皆はあまのじゃくをやっつけることができるのでしょうか、というお話。「あきらがゆいくんのシャツをめくると、みたことのないやつがおへそのごまをうまそうに食べていました」と読むと息子が自分のTシャツをめくっておへそを見ながら「ごまってなんだよ」と見ていたのが面白かったです(笑)。そこで私は「パパかじいじのおへそならあるかもよ」と・・・(笑)。息子はニヤニヤ何かを企んでいるようでした。最後に「〇〇にもあまのじゃく来るんじゃないの？」と言うと、「ごまないもん」だそうです。

〈すみれ組 Yさん〉

## とんでもない

〈作〉鈴木 のりたけ 〈出版社〉アリス館

「ぼくはどこにでもいるふつうの子 ぼくにしかできないこと ぼくにしかないすごいところ そんなのひとつも見つからない」という男の子のつぶやきからお話は始まります。よろいのような強い皮膚を持つサイをカッコイイとうらやむ男の子。ところがサイは「とんでもない」「実は重いんだよ・・・」と思わぬ苦勞が…。サイはぴんぴんと身軽に動きまわれるウサギこそうらやましいと言いますが、ウサギは「とんでもない」。クジラにライオン、鳥…みんなうらやましがられる。自分にないものはよく見えるけれどそれぞれ大変。悩みを抱えたときに自分と他人を比較し、担任を羨ましく思う感情。一方で羨ましいと思われているのに良さに気づけず自信がなかったり、みんな違ってみんな良い、それぞれ持っている個性を打時にして欲しいという願いが詰まっている作品だと思いました。



〈たんぼ組 Nさん〉

## もうぬげない

〈作〉ヨシタケ シンスケ 〈出版社〉ブロンズ新社



この絵本も前から家にあつたので今でも何回か読んだ事はあつたのですが、今回は読みながら、見ている時の様子が以前とは少し違うように感じました。なので、この絵本を読み終わった後に「もし〇〇が同じように脱げなくなっちゃったらどうする？」と聞いてみると「もう1回着てから脱ぎ直す」と。そして、最後の場面と同じように「途中で着られなくなっちゃったら？」と聞くと、今度は「1回全部脱いでから着直す」と言っていました。他にも主人公の男の子がジュースを飲みたくなった時にどうしようかと悩んでいた場面でも「ストローを使えばいいんじゃない？」と言ったりしていたので、ちゃんと考えながら見ているんだなと思いました。前だったら出来ない事があるとすぐに助けを求めていたのですが、自分で解決する方法を答えていたので、成長を感じました。

〈ひまわり組 Mさん〉

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。

## 編集後記

今年の梅雨はとて長く、ようやく明けたと思ったら暑さが厳しい夏休みでした。皆様はどんな夏休みを過ごされたでしょうか？我が家は図書館で絵本を借りてきて引きこもることが多かった夏休みでした。仕掛け絵本や昆虫の図鑑など兄弟で盛り上がっていました。

夏休みも明けて、いよいよ運動会ですね！毎日子ども達が元気いっぱい運動会の練習を頑張っています。年少さんは成長した姿を、年中さんはより成長した姿を、年長さんはたくましくなった姿をきっと見せてくれることでしょう♪

そんな子どもたちの姿を私たちは温かい目で見守り、応援しましょう！

元気いっぱい頑張っている子どもたちのためにもどうか過ごしやすい天気恵まれますように！！！！

〈もも組 Y〉

